

葛城市地域公共交通活性化協議会

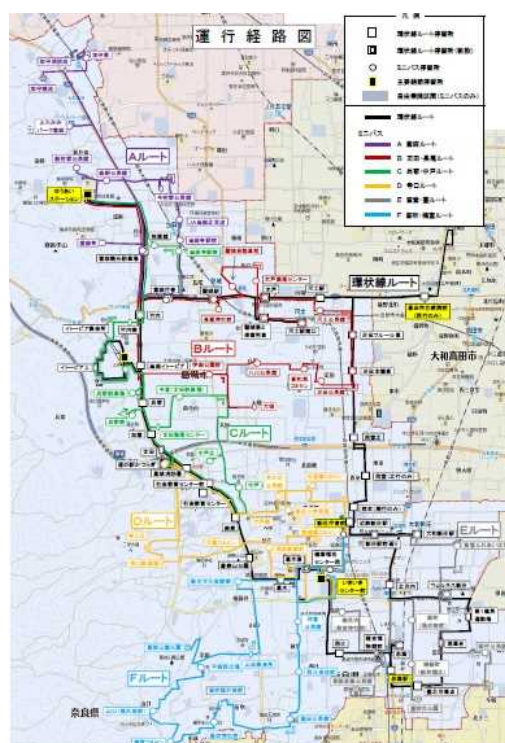
1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

公共交通の将来像

- 人口 平成 22 年国勢調査 35,859 人程度の維持
- 産業構造 第 1 次、2 次産業は 10 年連続で減少、3 次産業は平成 17 年以降微減が続いている。構成比では 3 次産業の増加が続き大都市圏のベットタウンとなっていることが考えられる。
- 財政動向 人口は横ばいが予測されるものの、高齢化率が上がることで、社会保障費の増大、労働人口の減少による税収減が見込まれるため、行政サービスの維持・向上と財政負担の軽減を両立させる必要がある
- 基本方針 住みよいまちを支える社会基盤の実現のため、地域交通ネットワークの整備を進める
- 計画期間 平成 29 年度～平成 38 年度
- 将来像 地域の拠点や商業施設、病院、駅等をつなぐ公共バスを運行するとともに、利便性を向上させ利用者を増加させる

【葛城市第二次総合計画抜粋】

公共交通ネットワーク図



2. 計画の達成状況の評価に関する事項

○評価の基本的な考え方

P D C A サイクルによる評価、改善を実行することで、変化に応じた継続的な改善を図る。

○評価指標

公共バスの年間利用者数

平成 3 4 年度 55,000 人

平成 3 8 年度 60,000 人

【葛城市第二次総合計画抜粋】

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

葛城市第二次総合計画（平成 2 8 年度策定）及び葛城市生活交通ネットワーク実施計画（平成 2 7 年度策定）に基づき事業を実施する。また、必要に応じて見直しを行う。

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金	奈良交通	平成 28 年 10 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日	フ	公共施設（庁舎、福祉施設等）、鉄道駅、医療機関、商業施設を結ぶ路線を構築し、地域の生活交通の確保を行った。

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
再策：再編計画策定事業、再推：再編計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
平成28年度安心して暮らせる地域公共交通確保事業補助金	葛城市	平成28年7月～平成29年3月	交通事情等によるバス遅延について、利用者にその情報を知らせる術がなかったため、情報の速達性を確保する改善策としてバス現在地位置情報システム（バスロケーションシステム）の構築を行った。

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
インターネットサイト内検索	市	平成29年8月	ジョルダン、ナビタイムと契約し、バスの時刻表をインターネットサイト内検索できるようになった。
観光客利用促進	市、奈良交通	平成29年9月1日～平成29年12月28日	當麻寺、石光寺との協力により、バス利用者に対し各寺の拝観料割引サービスを行うことで観光客のバス利用促進を図った。

4. 具体的取組に対する評価

事業が計画に位置付けられた目標を達成した。

環状線において1日当たりの利用数を67人と目標にしており、当該年度内において1日当たりの利用者は86人という結果となった。利用促進を踏まえて、前年度を上回る利用者を見込み目標を設定し、利用促進事業により新規利用者の増加につながった。

バス現在地位置情報システム（バスロケシステム）の構築については、奈良県内の自治体としては初の導入であり、認知度も低いことが予想されるため市HP及び広報等で図ることが必要である。

バス時刻表のインターネットサイト内検索の導入は、利便性を高めることにつながっていると考えられる。目的地検索でもバスの時刻表が表示できるようになれば、より一層の効果が見込まれる。

観光客利用促進について、観光客が訪問する一番多い當麻寺を含むコースを選定し當麻寺等の拝観料割引サービスを提供した。このことにより、ルートのお知らせが図られた。高齢者の利用が多いことからニーズに合った施策を検討する。

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課 題	課題への対応方針
利用促進	葛城市が、利用促進に関する取り組みを関係機関と協力して実施し、その内容を市HP、広報かつらぎで周知を行う。市主催のイベント等でのバス利用（イベントに参加に合わせたバス利用提案）を促す。
利便性を高める（バスロケーションシステムの周知）	葛城市がバス利用者の利便性を図るために導入した「バスロケーションシステム」の周知を市HP及び広報で図る。
利便性を高める（インターネットサイト内検索の充実）	ジョルダン、ナビタイムとの契約では、目的地情報からの時刻表検索につながっていないため、他社を含めサービス向上につとめる方策を検討する。
観光客利用促進（各寺の拝観料割引サービス）	マスコミで取り上げられることともあり、バス利用促進に寄与していることが伺える。高齢者など利用者ニーズの把握も含めた利用促進に取り組む。

葛城市地域公共交通活性化協議会

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況		
昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
公共交通の継続的な運行が求められる中で、その実現に向けた利用者の増加に向けた取組が今後必要となる。	當麻寺、石光寺との協力により、バス利用者に対し各寺の拝観料割引サービスの実施、バスロケーションシステムの導入、インターネット内検索の導入を行うことで観光客のバス利用促進を図った。	利用促進に関する取り組みを関係機関と協力して実施していく。
コミュニティバス周知広報用冊子を作成し、広く市民にコミュニティバス自体について周知を行う。	コミュニティバス周知広報用冊子を作成し、広く市民にコミュニティバス自体について周知を行った。	継続的に市HP、広報かつらぎで周知を行う。

2. アピールポイント、特に工夫した点など

バス現在地位置情報システム「バスロケーションシステム」を導入、バスの時刻表のインターネットサイト内検索を可能にすることで利用者の利便性を高めた。

當麻寺、石光寺との協力により、バス利用者に対し各寺の拝観料割引サービスを行うことで観光客のバス利用促進を図った。

また、上記の内容を市広報かつらぎに掲載するとともにメディアで取り上げられることで周知を図った。